

# 試験延期要求決議をし、文学部の

## 民主化を押し進めよう

（文学部民主化要求項目）

昨年八月六日、自民党文教制度調査会は坂田良輔を委員長とし四月四日には中教審中間報告、十月五日には経済同友会が、各々大学問題について述べている。これらに見解は大学は大規模化を称化し大衆化したと指摘した上で、「高度産業社会の要請に応える」が社会の要請と制度にふじた大学像を提起している。そしてその大学像にむけての改革として大学を「目的と性格に応じて、人々のことを提起している。更に大学の管理運営については教育研究とごりばはなして専門家に任すべきであり、全学の権限を局長に集中し、副学長制を採用することにより、責任の分担をすべきであるとしている。この二つは政府独自の反動的再編の策動は東大斗争における機動隊導入の如き強权的圧殺を突破口に、更に急速に露骨に展開し始めている。大学院大学構想、副学長設置（事実上の文部法五年間の教授審査会の設置）（民主制教授の違ひ）等々。さきに今日における大学の諸問題は、大学の在り方そのもの及びされているのであり、政府独自の反動的再編は民主制による民主的改訂の必要である。新制大学制度が決定して20年新制大学の指定は二六提案されながらも、その理念に従い、教育の社会均

等の普及にむき、科学の進歩に従い、自ら発展し改革していくということを中心になしえてこられた。現在の全国の学園斗争は、まさにそのような改革のめざす大学の保存的諸要素に対する反動である。この大学の改革期に際して全大衆人は自らの力でもって自らを改革してゆかねばならない。そして、我々自らの手でその改革を遂げる。その改革は政府独自の主張を行なうことにならう。へり下り人におけるのみならず、

この大阪府立大学も例外ではない。市大の最も反動的体制を有している医学部において、その矛盾は爆発した。そして、田中重雄部長の独断体制をうち破り民主化を押し進める斗いは医学部の諸君のストライキによって行なわれている。我々文学部においても民主的斗争に立ち加わらなければならない。医学部の諸君は民主化斗争を拒否権斗争に歪小化し、医学部の無責任体制打破の斗いをゆるめせにしている。文学部において、意欲に要求項目について意欲統一をばなり、民主化の斗いを押し進めようではないか。大学に試験延期決議をおしつけ、大学の改革を行なう場を保障させよう。

（文学部民主化要求項目）

□学部長選挙に、学生参加と

リコール権を認めよう。

□学生との事前協議体制（文学部

協力を確立せよ）。

□学生の団結権、スト権、団交

権を認めよう。

□文学部の予算経理を公開せよ。

□学生と教官の権成によるカリキュラム委

を確立し、評議を始める。

以上のことを、文学部教授会との大衆団交の

中へ、なちよう。

各クラスは学部の民主化要求項目にもつき討議を始めよう。

封鎖を敢行している諸君は、文学部民主化斗争の妨げ物になる。

各クラスの討議意を統一の下、大衆団交で民主化をなちよう。